

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

平成 30 年 11 月号



【伊都振興局】11/28 農業技術講習会果樹コース（柿基礎）での剪定講習

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

頁数

<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 2</b>
1. 囲いショウガ、種ショウガの収穫調査を実施	
2. 和海地方農村青年交流会～#これはもうミカン映え～	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3 - 5</b>
1. 各農業団体が紀の川市産業まつりで農産物をPR	
2. アグリビギナー研修会を開催	
3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 那賀）を開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>6 - 8</b>
1. 市町イベントで柿の料理を紹介	
2. 和歌山市立貴志小学校の子供達が柿の収穫体験	
3. 農業技術講習会果樹コース（柿基礎）開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>9</b>
1. 若手農業者が母校の後輩に農業の楽しみを伝授！	
<b>V 日高振興局</b>	<b>10 - 18</b>
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～「露菌」の導入推進・生産安定技術の実証と「ウメ斑入果病(仮称)」のまん延防止～	
2. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～低樹高化技術による省力化栽培の推進～	
3. 平成30年度日高地方農業士会地域リーダー研修会を開催	
4. 日高地方農業士会女性部会が現地研修会を実施	
5. 日高川町新果樹研究会県内研修会を開催	
6. シカレディースがシカ肉料理の検討会を実施	
7. 印南町農業士会がジビエの試食会を実施 ～シカレディースが協力～	

8. みなべ町立上南部小学校でみかんの出前授業を開催
9. 印南町4Hクラブが小学生に印南町の農業を紹介

## **VI 西牟婁振興局**

**19-21**

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】  
～ウメ「橙高」栽培実証園でのせん定研修会を実施～
2. 田辺生活研究グループ連絡協議会がシカ肉をPR
3. 田辺市立上芳養小学校で「みかんの出前授業」を実施
4. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が「ワークシェアリング」を実施！

## **VII 東牟婁振興局**

**22-24**

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】  
～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃を設置～
2. 三津ノ地域活性化協議会がタマネギのモデル展示圃を設置
3. 古座川梅研究会がうめ剪定講習会を開催
4. 三津ノ地域活性化協議会が「サツマイモ収穫体験」を開催
5. 太地小学校で「みかんの出前授業」を開催

## **VIII 農林大学校**

**25**

1. 「遊べ！学べ！楽しめ！全力で挑む農林大祭」  
第2回農林大祭を開催

## **IX 農林大学校 就農支援センター**

**26-27**

1. 特別研修「大阪市中心卸売市場を見学」
2. UIターン就農相談フェアを開催
3. 特別研修「ジャム加工について」を開催

## **X 経営支援課（農業革新支援センター）**

**28**

1. イチゴの天敵利用研修会を開催

# I 海草振興局

## 1. 困いショウガ、種ショウガの収穫調査を実施

和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、県農、和歌山県）では、新ショウガ生産のための種ショウガの一部自給を目指し、栽培推進に取り組んでいる。

3年目となる今年は、和歌山市内4地区（滝畑、山口、西和佐、山東）5戸の生産者が栽培に取り組んだ。

11月中旬に各園地において収穫調査を実施したが、今年は度重なる台風とそれに伴う降雨により、茎葉が折れたり一部で根茎の腐敗が発生したため、全体としては昨年より収穫量は少なくなっている。

今後、種ショウガとしての適性を判断するため乾物率等を調査するとともに、来春までJA貯蔵庫で根茎重の変化や腐敗の発生の有無を調査し、種ショウガとしての適性を判断する。



収穫期を迎えた圃場



収穫調査

## 2. 和歌山地方農村青年交流会～#これはもうミカン映え～を開催

11月10日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：太田勝弘）、海南市4Hクラブ連合会（会長：前山明日規）が共催で和歌山地方農村青年交流会を開催した。この交流会は、地域の農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に対する理解と関心を深めることを目的として毎年夏に開催されている。

今回は、ミカンの収穫体験をしたいというアンケート結果をもとに、8月のブルーベリー収穫体験に引き続き、第2回目の開催となった。

当日は大阪府や和歌山市から女性10名、男性10名（うち、6名は和歌山地方4Hクラブ連絡協議会会員）の参加があり、海南市下津町の海に見えるミカン園地にて収穫体験を行った。収穫したミカンは完熟ゆら早生であり、参加者に糖度を測定してもらった結果、15度～18度という値を示した。ミカンを栽培しているクラブ員らは交流しながら、おいしいミカンの特徴や片手採りを参加者に教えていた。

収穫体験の後は、ミカン倉庫を改修したカフェ「FROM FARM」に移動し、店主の大谷幸司氏にミカンの絞り方などの説明を受け、収穫したミカンでジュース作りを行った。糖度が15度以上あるため参加者はジュースの濃厚さに驚いていた。

参加者からは「ミカンの選び方を教えてもらえてよかった」、「若い農家さんが多いことを知らなかった」という感想があった。

農業水産振興課では、今後も、両協議会の活動を支援しながら農業者と消費者交流の場をつくっていききたいと考えている。



ミカン狩りをする参加者



大谷氏からミカンジュース作りの説明

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 各農業団体が紀の川市産業まつりで農産物をPR

11月11日、紀の川市農業士会（会長：飯田勝）、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：畑敏之）、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和）、紀の川市生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子）、紀の川市4Hクラブ（会長：米田基人）、那賀農業改良普及推進協議会（会長：中村慎司）は、貴志川体育館・駐車場で開催された紀の川市産業まつりに参加し、地域の農産物をPRした。

農業士会は柿、キウイ、みかん、花き類の販売、環境保全型農業グループは会員が生産した果樹・野菜の販売、那賀地方有機農業推進協議会は会員が生産した野菜と地元で収穫されたシシ肉を使ったポトフ、生活研究グループは特産の柿を使ったジャンボ巻き寿司作り体験の実施、4Hクラブは秋冬野菜、コーヒーなどの販売を行った。また、那賀農業改良普及推進協議会では、パネル展示を行い、那賀地方の農産物についてPRを行った。

消費者からは、「新鮮な野菜を安く売ってくれる、毎年楽しみ」、「ポトフが美味しかった」など様々な声があった。

今後も、農業水産振興課は様々なイベントを通じて地元農産物のPRを行う農業者団体を支援していく。



紀の川市農業士会



紀の川市生活研究グループ連絡協議会



紀の川市環境保全型農業グループ



紀の川市4Hクラブ

## 2. アグリビギナー研修会を開催

11月16日、第1回アグリビギナー研修で紹介された低コスト簡易ハウスの設置研修会を開催し、24名の参加があった。

本施設は簡素なアーチと被覆資材のみで構成される設備で、資材費が安く、特別な技術が無くとも設置、撤去が簡単で、借地での運用にも適する。

研修会は低コスト簡易ハウスを実際に活用している細野健太氏を講師として、設置手順等の説明があり、参加者は熱心に聞いていた。

低コスト簡易ハウス設置の実演では、地面への穴開けや設営のコツについても作業をしながら説明があり、完成後は、ハウスの活用方法や果菜類での利用の可能性などについて、意見交換がなされた。

農業水産振興課では、今後は経営試算を行い、指標を作成して導入に向けた支援を行っていく。

(設置手順)

- ①. 圃場に印を設置（本研修では玉付きの紐を利用）、アーチ部材の差し込み穴をあけていく。
- ②. アーチ部材を差し込み、組み立てる
- ③. アーチの高さを調整し、アーチの足下に溝を切る。
- ④. ビニールを被せ、片方のツマに土を置いて展張する。被覆資材の位置決めが終わったら溝切り機（管理機）で土を被せていく（完成）。



低コスト簡易ハウス設置時の説明



フィルム展張時の内部体験

### 3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 那賀）を開催

農業水産振興課では、環境保全型農業を推進することを目的に、毎年、エコ農業を実践している生産者の園地を「エコ農業実践モデル園」に設定し、先進的な栽培方法や創意工夫をこらした取組について展示活動を行っている。

今年度は、紀の川市（旧粉河町）で有機 JAS を取得し、トマトやパプリカ、イチゴ栽培に取り組んでいる山本博氏のほ場で 11 月 28 日に現地研修会を開催し、生産者や関係者 17 名の出席があった。

山本氏は、平成 9 年から有機 JAS 認証を取得し、約 20 年間有機 JAS 認証を継続（トマト、パプリカ）し、平成 25 年からはイチゴでも認証を取得している。

栽培の特徴として、トマトでは 1 年～1 年半かけて収穫する多段栽培（約 70 段）や少量培地耕栽培、イチゴでは高設栽培を導入することで作業の効率化を図っている。

また、土づくりでは、籾殻、自家製竹チップ、紀ノ川河川敷の草などを主原料とする堆肥を使用し、ほ場で使用する全ての肥料は、米ぬか、魚かす、油かす、籾殻くん炭などを主原料とした自家製ボカシ肥料を使用している。

参加者からは、病害虫を発生させない工夫や栽培方法、土づくりのこだわりについて、熱心に質問するとともに参加者同士の意見交換が行われていた。

今後も、当課では環境保全型農業の推進するため、経営や栽培の参考となる研修会を今後も開催していく予定である。



イチゴ高設栽培



トマト多段栽培

## Ⅲ 伊都振興局

### 1. 市町イベントで柿の料理を紹介

伊都地方農業振興協議会（構成：市町、JA、農業共済、振興局：以下、協議会）では、柿の消費拡大PRとして、10月及び11月に開催された産業まつり等のイベントで柿料理の無料提供を行った。

10月は和歌山市内で開催された「わかやま健康と食のフェスタ」、11月は伊都管内各市町のイベントで、協議会作成の「柿料理レシピ集」に掲載している「柿のホットサンド」を各400食ずつその場で調理し、できたてを試食してもらった。

「柿のホットサンド」は、材料に柿と食パン、チーズ、乾煎りしたクルミを使用し、ホットプレートでパン、チーズ、スライスした柿、クルミを順にのせてもう一枚のパンで挟み、両面に焦げ目が付く程度に焼いたもので、大人から小さな子供まで食べていただける一品。

試食した人からは、「家でも試しにやってみます」、「柿の甘さとチーズがあっておいしい」など高評価であった。

農業水産振興課では、今後も引き続き柿の利用推進を図り消費拡大につなげたい。



かつらぎ町産業まつり



高野町地域づくり交流フェスタ

## 2. 和歌山市立貴志小学校の子供達が柿の収穫体験

11月1日、貴志小学校5年生61名が社会見学の一環として九度山町で柿の収穫体験を行った。

本取り組みは、「子供達に柿が樹になっている様子を見せ、柿の収穫を体験させたい」と同校からの依頼があり実施したもので、農業教育推進事業を活用して柿の消費拡大や食育活動に取り組んでいる九度山町の柿娘（かきっこ）グループ（会長 玉置恵子）を講師に、会員の坂本洋子氏の柿園で開催した。

農業水産振興課長から歓迎の挨拶を行った後、玉置会長から九度山町の柿栽培等について説明があり、坂本氏の夫の博氏から柿の収穫の仕方やはさみの使い方を教わった。

グループ員が準備した柿を試食した後、子供達は各自、園地をまわって2個の柿を収穫し、紀ノ川を眼下に望む見晴らしの良い園地で弁当を食べ、楽しい一時を過ごした。

農業水産振興課では、今後とも消費地の子供達に柿をPRするグループに対し、活動方法等を積極的にアドバイスしていきたい。



園主の坂本氏から収穫の仕方の説明



柿を2果ずつ収穫体験

### 3. 農業技術講習会果樹コース（柿基礎）開催

11月28日、伊都振興局において農業技術講習会果樹コースを開催し、受講生18名（3年前の受講生2名を含む）が出席した。

この日は午後から降雨予想であったため、先に座学の予定を急きょ実習に振り替え、九度山町内の現地柿園において「刀根早生」のせん定講習を実施した。

農業水産振興課の小松普及指導員からせん定時の心構え、整枝・せん定の手順を説明した後、実際にせん定鋸で徒長枝や内向枝など次の年に残せない枝を切除し、続いて、せん定鋸で主枝毎に樹上部から下部へ、順に、競合枝、下垂枝等の切除や側枝更新、樹勢の強さや土質に応じたせん定程度で樹勢調節等を説明しながら、実演した。

座学は、振興局へ戻り、有田普及指導員から柿園の間伐・縮伐、整枝・せん定、土壌改良、越冬害虫防除について説明を行った。

今回、基礎コース5回目で最終日。全くの初心者から少し経験のある方まで様々であったが、受講者からは「今まで自己流でやってきたが作業の一つひとつに価値や重要さがあることがわかり受講した意義があった」、「柿栽培の基本が理解できた」、「初めは専門用語が理解できず困った」などの感想が寄せられた。

柿のせん定実習については、柿専門コースで12月上旬に「刀根早生」、12月中旬に「富有」で実施の予定である。



せん定講習



振興局での講義

## IV 有田振興局

### 1. 若手農業者が母校の後輩に農業の楽しみを伝授！

11月6日、有田川町立鳥屋城小学校の3年生を対象として、有田川町4Hクラブに所属する亀井勇希氏と小澤佑哉氏が、みかんの収穫体験を行った。

亀井氏は有田川町（旧金屋地区）における後継者不足を憂い、農業の楽しさを知るには小学校からの農業教育が必要との考えから、今年度より母校である鳥屋城小学校で農業授業を開始した。9月10日にはみかん栽培の一年間の流れや、作業で使う道具などについて授業を行っており、今回はみかんの収穫の楽しみを知ってもらうことを目的に実施した。



園地の説明

亀井氏が収穫方法について説明を行った後、5～6名の班に分かれて40分ほど収穫体験を行った。約30名でコンテナ5杯を収穫したが、生徒からは、「もっと採りたい」などの声が聞かれた。

その後、児童自らが収穫したみかんの試食を行った。「甘くておいしい」などの感想が聞かれ、中には10個以上のみかんを食べる児童も見られた。

農業水産振興課では、今後もこのような地域の若手農業者の活動を支援していくこととしており、当課としても今回授業を受けた児童の中から、未来の農業者が育つことを期待している。



収穫方法の説明



記念撮影



みかんの試食

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト

#### 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「ウメ斑入果病(仮称)」 のまん延防止～

農業水産振興課では、新病害虫の侵入警戒とまん延防止と、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」、「翠香」といった特徴ある品種の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「露茜」の導入推進のため、高城及び清川出荷会を対象としたせん定講習会を和歌山県果樹試験場うめ研究所の研究員を講師に迎え、それぞれ11月5日及び6日に開催した。

高城出荷会では6名が、清川出荷会では24名の生産者が参加し、主幹形及び開心自然形の樹のせん定方法を講習した。

また、昨年「露茜」で発生が確認された「ウメ斑入果病(仮称)」については、接ぎ木やせん定作業などにより汁液伝染する可能性があるため、今年うめ研究所により確立された、せん定器具の簡易な消毒方法についても説明し、病害のまん延防止を呼びかけた。

参加者からは、「樹勢を維持するためのせん定方法は?」、「南高とは切り方が全然違う」といった意見があり、毎年講習会を行うことで、徐々にではあるが理解が進んでいくと考えている。

今後、当課では、結実安定のための人工授粉の効果を調査する予定である。



清川出荷会におけるせん定講習



高城出荷会におけるせん定講習

## 2. 重点プロジェクト

### 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～低樹高化技術による省力化栽培の推進～

青梅出荷は収穫労力がかかる上、生産者の高齢化や労働力不足の問題もあり、生産量に占める青梅出荷比率が減少傾向にある。このため、和歌山県果樹試験場うめ研究所では、平成30年度からの3年間、ウメ「南高」の低樹高化技術確立による青梅の生産性の向上に取り組んでいる。

この中で、農業水産振興課も協力し、4月にみなべ町熊瀬川地区に現地実証園を設置するとともに、摘心処理を実施した。

11月20日には、高城出荷会を対象にした栽培講習会を開催し、うめ研究所城村主査研究員から主枝切り下げによる低樹高化処理と摘心処理の組み合わせにより、慣行並みの収量を確保しつつ省力化を実現できる技術について説明を受けた。

参加者からは、主枝切り下げにより樹勢が低下しないかや、摘心後のせん定方法などについて質問があった、

当課では、来年度4月に摘心処理講習会を開催し、低樹高栽培の導入推進を図る予定である。



うめ研究所研究員による低樹高化栽培の説明



主枝切り下げ（カットバック）

### 3. 平成30年度日高地方農業士会地域リーダー研修会を開催

日高地方農業士会（会長：谷廣美）は、11月2日、平成30年度地域リーダー研修会を滋賀県近江八幡市の農業生産法人浅小井農園で開催し、農業士会会員他25名が参加した。

浅小井農園では代表取締役の松村務氏からGAP取得の取り組みや中玉トマト施設栽培等について話を伺うとともに施設見学を行った。

浅小井農園では、平成21年3月に国の補助事業を活用して超低コスト耐候性ハウスの施設を導入、同年8月にJGAPを取得した。松村氏からはGAP審査を受けるにあたっては、最初から高得点を目標とするのではなく、指摘された所を改善して合格に繋げた点や農業のルール作りとして活用している点など、実践している取り組み事例を交えて話を伺い、参加者からGAP申請にかかる経費などの質問が寄せられた。

施設見学は、高軒高ハウスの状況、管理作業の省力化のために導入している高所作業車、また、養液栽培施設や工具類などの保管状況などを見学した。選果場では、コンテナの運搬作業など軽労働化の労働面の取り組み、また、加工品の取り組みとして、裂果果実の規格外品を利用したドライトマトの商品化や冷凍果実などの生産販売、販路開拓のための商談会出展など、生産から販売まで幅広くお話を伺った。

参加した会員は熱心に松村氏の話聞き、有意義な研修となった。



松村取締役から話を聞く会員



整理・整頓された工具類



選果場とドライトマト用乾燥機



商品（朝恋トマトとドライトマト）

## 4. 日高地方農業士会女性部会が現地研修会を実施

11月7日、日高地方農業士会女性部会（部会長：鶴尾安代）が日高町で現地研修会を実施し、会員15名が参加した。

最初に、日高町公民館で松本秀司町長から歓迎の挨拶を頂いた後、農業委員会の楠岡崇局長（産業建設課主幹）から同町の概要について説明があった。その後、ナタ豆で6次産業化に取り組んでいる日高元気塾代表の津村利治氏らの講話があった。

ナタ豆は、鳥獣害の被害がほとんどなく、農薬を使わなくてもよいことから、日高町で数十年前から栽培する農家が数軒あり、平成24年から会員6名でナタ豆を使った加工品作りの活動を始めた。

ナタ豆茶の加工では、天気の具合でうまく天日乾燥できないことや、ハウスが狭いので出荷量を調整しながら加工を行っているなどの苦労があるとのことだった。

また、日高元気塾では、今までナタ豆茶以外に企業と協力し、石けんや飴などの商品開発を行ってきており、今後は町の特産品であるクエとともにナタ豆をPRしていきたいとのことであった。

部会員からは、「ナタ豆はサヤが堅いのでどうやって切っているのか」、「ナタ豆茶は以前より飲みやすくなっているがなぜか？」などの声があった。

参加した部会員は熱心に津村代表の話聞き、6次産業化の取組事例を学んでいた。



松本町長から歓迎される部会員



津村代表からお話を聞く部会員

## 5. 日高川町新果樹研究会県内研修会を開催

日高川町新果樹研究会（会長：川越安信）は、11月9日、有田および日高地域の現地で県内研修会を開催した。

最初は由良町衣奈で、ゆら早生および中晩柑類と、ビシャコを栽培をしている川口洋治氏園を訪問した。

園主からは水転の段畑でのゆら早生マルチ栽培手法や多岐にわたる新旧の中晩柑類の導入について説明して頂いた。また、防風垣として植栽しているビシャコについて、管理は省力的で秀品率がよく、国産需要の高まりもあって市場や直売所から常に好評で、カンキツ栽培の副収入に大きく貢献していることを伺った。会員からは、「カンキツで作りやすく需要のある品目は？」、「ビシャコの卸値と価格の変動は？」など、みかんと副業品目についての質問が多く寄せられた。

続いて、有田川町田口で早生みかんを栽培されている小沢守史園を訪問した。

園主は、JA ありだ竹中営農指導員の指導の下で一からみかん作りを行い、現在は出荷する選果場でトップクラスの品質に仕上げるまでに成長され、その考え方と取り組みについて伺った。ちょうど収穫期を迎えるミカンが整然と着果し、果径や着果方向のみならず樹形・樹勢が見事に整っている様に会員は大変驚いていた。そして、時間を大幅に超過するほど、園主や営農指導員に質問を行い、特に、樹の剪定や誘引、摘果については技術指導を交え、熱心な情報交換が行われた。

会員からは、「研究会での外部講師による管理手法では学べない内容も多く大変よかった」、「定期的に小沢園での見学・情報交換を行いたい」など、非常に高い関心が寄せられた。



中晩柑とビシャコ栽培について説明する  
川口氏



早生みかんの栽培手法と理論について解説する小沢氏

## 6. シカレディースがシカ肉料理の検討会を実施

11月13日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子）の有志でシカ肉料理の普及に取り組んでいるシカレディース（隊長：後藤明子）の隊員9名が、印南町公民館でシカ肉料理の検討会を行った。

これまでシカ肉料理講習会やイベントでの試食会の開催、料理レシピ集の配布などの活動を続けてきたが、最近、他団体からの料理講習会の要請が減っていることや以前作ったレシピ集以外に新メニューがないため、検討会を開催することになった。

当日、隊員が新メニューとして「シカ肉と高菜のチャーハン」、「シカ肉のショウガ焼き」など4品を試作し、試食しながら、シカ肉料理の調理法と普及について検討した。

隊員からは、「味付けも良く、美味しいので新メニューに入れた方がよい」、「皆が知っている料理で簡単に作れるのがよい」、「シカ肉の価格が安ければ使いやすい」などの声があった。

今後も家庭で美味しいシカ肉料理を食べてもらえるよう活動を続けていく。



料理を試食する隊員



試作したシカ肉料理

## 7. 印南町農業士会がジビエの試食会を実施 ～シカレディースが協力～

11月18日、印南漁港で開催された「第10回印南かえるのフェスティバル」で、印南町農業士会（会長：尾曾 紀文）がシシ肉とシカ肉の試食会を行った。

印南町でもイノシシやシカ等による農産物の被害が問題となっていることから同会では野生鳥獣を単なる害獣ではなく、地域資源であるジビエとして活用するためには美味しく食べてもらう必要があると試食提供を継続し、今年で8年目となる。

この日は、特製のタレに漬けて揚げたジビエ竜田揚げを、来場者約500名に提供をした。また、本年もシカ肉料理の普及に取り組んでいるシカレディースと協力し、試食と合わせジビエ料理レシピ(150部)の配布も行った。

ジビエの部位による食味や食感の違いを実感してもらうため、シシ肉・シカ肉ともロース、モモの2部位を用意し、来場者に提供した。来場者からは「柔らかくて美味しい」、「食べやすい」、「ジビエ特有の臭いが気にならない」などといった声が聞かれた。

11時すぎには用意していたジビエ(猪肉5kg、鹿肉5kg)を完食した。

今後も、鳥獣害対策の一環として活動を続けていく予定である。



試食会



シカレディースによるレシピの配布

## 8. みなべ町立上南部小学校でみかんの出前授業を開催

平成 24 年度より、県では地産地消の取組として県内の小学校及び特別支援学校の給食や家庭科等の教材として、主要農水産物の提供を行っているが、今回は「みかん」を題材に 11 月 22 日に上南部小学校を直接訪問し、5 年生を対象に「みかんの贈呈式&出前授業」を開催した。

当日は、果樹園芸課川内副課長から出前授業の概要について説明した後、和歌山県 P R キャラクター「きいちゃん」が登場し、「きいちゃん」と普及指導協力委員の坂口久美子氏が児童代表にみかんを贈呈した。その後、坂口氏から、みかんづくりの大変さやできたときの喜びを農家の話として紹介し、続いて、農業水産振興課水上普及指導員から、和歌山県のみかんの生産状況や栽培方法、美味しいみかんの見分け方、みかんのむき方などについて説明した。最後に、持ち込んだみかんを児童全員で試食した。

児童らからは、「みかん収穫後にはどのような作業がありますか?」、「みかん園にくる害虫はどんなものがありますか?」など熱心に質問があり、試食したみかんには「甘い」、「おいしい」などの感想があった。うめを主体に栽培されている地域ながら、児童らの県農産物やみかんづくりへの関心は高く、みかんの授業は好評であった。



きいちゃんと坂口普及指導協力委員  
からみかんを贈呈



みかんの出前授業

## 9. 印南町4Hクラブが小学生に印南町の農業を紹介

印南町4Hクラブ(会長：新谷力)は、11月22日、印南町立清流小学校の全児童67名を対象に、印南町の農業を紹介する授業を行った。

印南町は農業が盛んな地域であるが、近年、新規就農者が減少しており、同クラブは現在5名での活動となっている。この状況を打開するためにどうすればよいかを考えたところ、子供のうちから農業への関心を高める取組が必要ではないかとの意見が出され、本年のプロジェクト活動として取り組むこととなった。

当日は、印南町の農業について概要を紹介した後、同校周辺地域で栽培されているえんどう、千両、梅等の品目別について説明を行った。その後クラブ員が育てたスターチス、宿根カスミソウ、キンギョソウ、スプレーカーネーションを使った花束づくり体験を実施し、児童及び教員からも好評であった。

このような取組は、10月に清流中学校においても実施しており、併せて平成31年1月に開催される青年農業会議で発表する。

今回のような子供への教育活動は長期的な取組が必要となるが、クラブ員の熱意が認められ、町及び教育委員会の協力を受けることができた。農業水産振興課では、この取組が今後も継続できるよう4Hクラブへの支援を継続していく。



概要を説明する新谷会長



好評だった花束づくり

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

#### ～ウメ「橙高」栽培実証園でのせん定研修会を実施～

ウメ新品種「橙高」は機能性成分のβ-カロテンが豊富で、この機能性成分を活かした新たな加工品の開発などウメの新たな需要を高める品種として期待されている。現在、果実の早期多収を目的に、田辺市上芳養の東山パイロット内に栽培実証園（3年生樹、48本/4a）を設置し、主幹形仕立て法の密植栽培に取り組んでいる。今年は5月上旬の強風で新梢が折れたり、9月の台風で早期に落葉した影響で、樹冠の拡大が遅れている樹があるものの、6月には62kgの収穫量があり、去年の7kgから約9倍と順調に増えている。

昨年につき、11月26日に主幹形仕立てに適したせん定方法の研修会を開催したところ、15名（生産者、JA紀南営農指導員、うめ研究所研究員、経営支援課農業革新支援専門員、普及指導員）が参加した。うめ研究所の土田主任研究員から「橙高」の加工品にかかる試験研究内容の説明に続き、城村主査研究員からせん定法について実演を交えて説明があった。その後、数名のグループに分かれて実際にせん定を行った。参加者は普段とは違った切り方に少し戸惑いながらも、相談しながらせん定していた。

梅干の需要が高まる中で、「橙高」の面積を増やすことは容易ではないが、今後とも実証園での栽培を通じて新たな栽培希望者に推進するとともに、果実の特徴を活かした加工品の開発や果実販売先の確保に向け関係機関と連携していく。



せん定の説明



参加者によるせん定

### 2. 田辺生活研究グループ連絡協議会がシカ肉をPR

11月11日、田辺スポーツパークで開催された第31回田辺農林水産業まつりで、田辺生活研究グループ連絡協議会（会長：高垣せり）がシカ肉のたつた揚げを販売した。

県内では、シカによる農作物への被害が深刻で、捕獲の推進を図っているところである。一方でシカ肉は、牛肉に比べて低カロリー、高タンパク質、低脂質、高鉄分な上、脂肪燃焼効果のあるL-カルニチンが豊富で、美容と健康面において注目されている。味もあっさりとしてクセが少なく、どんな料理にも合い、その活用が期待されている。

そこで同グループでは、多くの人にシカ肉の美味しさを知ってもらい、地域資源として定着させようと6年前からシカ肉料理を地元イベントで販売・PRしている。

本まつりでは、田辺市鳥獣害対策協議会から提供された紀州ジビエのシカ肉を、シカ肉のたつた揚げに調理してチャリティー販売した。シカ肉のたつた揚げは、シカ肉をしょうゆ、酒、生姜汁に一晩漬け込み、片栗粉を付けて揚げる。販売開始前には行列ができ、揚げたてのたつた揚げを老若男女が味わった。用意した約200食はあっという間に完売し、年々ジビエの認知度が高まっていることが感じられた。

農業水産振興課では、シカ・イノシシの捕獲推進を図るためにも、捕獲後の有効利用となるジビエ肉の消費拡大PRを当グループなどとともに実施していく。



販売開始前の長蛇の列！



シカ肉のたつた揚げ

### 3. 田辺市立上芳養小学校で「みかんの出前授業」を実施

11月16日、上芳養小学校の4年生の児童（18名）を対象として、普及指導協力委員の船本幸雄氏、農業水産振興課の前田普及指導員がみかんの生産状況等を説明する出前授業を行った。県では地産地消の取り組みとして平成24年度から県内小学校・特別支援学校を対象に、給食や家庭科等の教材として使用する主要農水産物の提供を行っている。今回、その取り組みの第4弾である。

まず、船本氏がみかん栽培の苦労話として、今年は台風の被害が続いたことや鳥獣被害が絶えないこと、また摘果は夏場の暑い時期の作業となるため、空調服を着て作業を行っていることを説明した。

続いて、前田普及指導員がみかんの栽培状況やみかんを食べると体に良いこと等について説明を行った。カンキツの種類当てクイズでは積極的に手が挙がり、児童は興味深く話を聞いていた。

その後、船本氏が栽培した「木村早生」と「上野早生」について、自身の直売所用POPを使って品種を紹介した後、2品種の食べ比べを行った。試食した児童らからは「木村早生の方が袋がやわらかく、ジューシーでおいしい」などの感想が出た。

また、作業に使っている空調服の試着体験を行い、希望者10名ほどが試着した。試着した児童は「風がきて涼しい〜！」、「夏でも作業が楽そう」と笑顔を見せていた。

質問の時間には「みかんに白いスジがあるのはなぜ？」、「和歌山県のみかんの生産量

はいつから1位なのか」、「どれくらいもうけているのか」等、数々の質問が上がり、みんな興味深く話を聞いたようである。

今後も当課では関係機関と協力しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



普及指導協力委員の船本幸雄氏の説明



前田普及指導員の説明

#### 4. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が「ワークシェアリング」を実施！

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：森夏輝、会員11名）は、今年度のプロジェクト活動として、クラブ員同士で1日働いてもらった分を1日働いて労働力で返す「ワークシェアリング」に取り組んでいる。労働力不足が問題となっている今、地域で労働力を出し合うことで効率的に作業を進めていければという狙いである。

11月16日に田辺市長野の園地で改植作業（伐採、枝の片付け）、11月21日に田辺市上芳養の園地で除草と施肥を行った。作業後の感想として、「1人でやるより作業がはかどった」、「作業を分業することで効率的に作業が行えた」と意見があった。

今後は別地区でもウメの剪定作業などに取り組むとともに、「ワークシェアリング」の効果や改善点について意見を出し合い、来年1月の青年農業者会議の発表に向けて発表内容をまとめていく予定である。



改植作業（伐採）



除草作業

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃を設置～

11月28日、那智勝浦町苺生産組合(会長：栗野稔近)は、イチゴの天敵を利用したハダニ類の防除実証圃を設置した。

イチゴの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要となってきた。

当日は、農業水産振興課浅井普及指導員から天敵の放飼方法と当面の管理方法、ハダニ類の観察の重要性について説明を行った後、園主が実際に天敵の放飼を行った。

園主からは、「今年は天敵を利用して春までハダニの発生を抑えたい」との抱負があった。

今後は実証圃のハダニ類と天敵の密度を調査することで天敵の効果を確認し、現地研修会などを通じて地域への普及を図っていく。



天敵放飼

### 2. 三津ノ地域活性化協議会がタマネギのモデル展示圃を設置

11月1日、三津ノ地域活性化協議会(会長：下阪殖保)とJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町でタマネギのモデル展示圃約5aを設置した。

この地域は、近くを流れる熊野川と赤木川が台風などによる大雨で氾濫することが多く、夏期の野菜づくりは難しいが、タマネギはこの水害発生時期を回避できるうえ、貯蔵性と安定した需要が見込めることから、モデル展示圃を設置することとなった。

今後、品質や収量等を調査して有望品目を選抜し、周辺農家へ導入を推進していく。



タマネギの定植



定植直後のタマネギモデル展示圃

### 3. 古座川梅研究会がうめ剪定講習会を開催

11月2日、古座川梅研究会（会長：新屋量男、会員5名）は、研究会会員の梅園で剪定講習会を開催した。

はじめに、農業水産振興課浅井普及指導員から農作業安全啓発チラシを利用して事故事例と事故防止のポイントについて説明を行い、その後、経営支援課根来農業革新支援専門員を中心に剪定講習を行った。各園地は樹齢や園地条件（水田転換園・造成地）等が異なることから、それぞれの園地に適した栽培方法を議論しながら、状況に応じた剪定方法を指導した。

当課では今後もうめの安定生産と高品質化を推進していく。



うめ剪定講習会（串本町西向）

### 4. 三津ノ地域活性化協議会が「サツマイモ収穫体験」を開催

11月18日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保）は、新宮市熊野川町の休耕田を活用したサツマイモ畑の収穫体験を開催した。新宮市内外から家族連れなど6組14名の参加者があり、それぞれが6月30日のサツマイモ植付け体験で苗を植えた場所で収穫を行った。当日参加できなかった人は後日収穫を体験した。

最初に下阪会長がサツマイモの収穫について説明した後、参加者は以前に植え付けた区画をスコップで掘り起こし、サツマイモを傷つけないように収穫した。参加者からは「もっとたくさん掘りたい」、「イモを切ってしまった」、「たくさん泥がついたが楽しかった」などの感想が聞かれた。

農業水産振興課では、これからも関係機関と連携しながら、三津ノ地域活性化協議会の取り組みを支援していく。



サツマイモの収穫



収穫したサツマイモ

## 5. 太地小学校で「みかんの出前授業」を開催

11月21日、農業水産振興課は、太地町立太地小学校3年生16名を対象に、和歌山県の主要特産物であるみかんの出前授業を行った。和歌山県では、食育の取組として、子供達の郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成すること目的に出前授業を行っている。

授業では、浅井普及指導員が和歌山県のみかん生産の状況や栽培方法について説明し、堺副主査が、みかんの栄養素やおいしいみかんの見分け方、和歌山むきについてクイズを交えて説明した。その後、県内で栽培されているみかん7品種の食べ比べを行った。

児童からは、「みかんにこんなに種類があるなんて知らなかった」、「健康に良いので家でもたくさん食べたい」などの感想があり、みかんについての関心が高まったと感じた。

今後も当課では、県内の特産物を活用した食育を推進していく。



食育授業

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 「遊べ！学べ！楽しめ！全力で挑む農林大祭」

#### 第2回農林大祭を開催

12月2日、学生が栽培した新鮮な農産物の販売、各種イベント等をとおして地域住民と交流を深めることを目的に第2回農林大祭を開催した。この祭は、前農大祭時代を含めると45年の歴史があり、学生自治会自らがイベントの企画・運営を学習する恒例行事となっている。当日は天候にも恵まれ約1,000人が訪れ盛況であった。

学生は、日頃の講義や農業実習ではできない貴重な体験ができたとともに、開催までの準備を通じ学生間の一体感も高まった。



農産物販売



農大ライブ



もちまき

## IX 農林大学校 就農支援センター

### 1. 特別研修「大阪市中央卸売市場を見学」

11月1日、社会人課程および技術修得研修の研修生計18名の参加により大阪市中央卸売市場見学を行った。

大阪市中央卸売市場本場市場協会の案内により果物、水産、野菜売場の順に見学を行った。見学は8時45分から開始であったため競りは終了していたが、沢山の果物、野菜が並んでおり活気に溢れていた。和歌山県産のみかんや、柿、キャベツ、エンドウ等だけではなく、珍しい果実や野菜もあった。

見学終了後、和歌山県農大阪事務所のお世話により大阪中央青果株式会社の果実・野菜の担当者から果実・野菜の販売状況等について話を聞いた。意見交換では研修生から今後有望な品目や、興味があり今後栽培したい品目についての市場性について意見を伺った。

今回参加した研修生からは「栽培意欲が増した」、「早速、伺った話を参考に栽培を考えたい」という声があり、好評であった。今回経験したことをぜひとも就農後に役立てていてもらいたい。



競り人による模擬競り



市場内見学

### 2. UIターン就農相談フェアを開催

11月18日、和歌山ビック愛において、「UIターン就農相談フェア」を開催した。就農相談会には、県内への就農を考えている8組9名（うち県外4組、県内4組）の方々が来場した。相談内容は、「技術を修得するために研修を受講したい」や「農業生産法人へ就職したい」等があり、就農に向けてのアドバイスを行った。

また今回は、資金面の相談、林業就業相談、移住相談などのブースもあり、新規就農者向け資金、林業の仕事内容や給与等、県内の各市町村の説明や県の移住支援策についての説明が行われた。

今後、就農相談会は平成31年2月24日に和歌山ビッグ愛にて先輩 I ターン就農者からの話を聞くことができる新規就農セミナーと併せて実施し、また3月10日にも就農支援センターにて農業体験と併せて開催を予定している。



相談会

### 3. 特別研修「ジャム加工について」を開催

11月28日、就農支援センターにおいて、南部高校の岡信孝先生に講師をお願いし、特別研修「ジャム加工について」を行った。この特別研修には社会人課程および技術修得研修の研修生計14名が参加した。

まず講師からジャム作りのポイントについての説明を受けた。ジャムが固まる理由や瓶に詰める際のポイント、ジャムの濃縮度合いを簡単に確認する方法などを学んだ研修生はとても感心していた。それに続き、講師による実演と並行して、就農支援センターで収穫したイチゴとブルーベリーを材料としたジャム作りを研修生たちは行った。質問をしながら研修生たちは協力し、真剣に取り組んでいた。またあえてウメとブルーベリーを混ぜ合わせて作るジャムについての話を研修生は興味深げに聞いていた。

当センターでは、研修生にとって今回の特別研修は六次産業化を考える際の糸口となることを期待しており、研修生には今回学んだことを活かしていってもらいたい。



岡講師による説明



ジャム作りの実習

## X 経営支援課（農業革新支援センター）

### 1. イチゴの天敵利用研修会を開催

経営支援課では、県農業試験場で県下の野菜担当普及指導員を対象にイチゴのハダニに対する天敵利用研修を開催し、10名が出席した。

イチゴでは、ナミハダニに対する効果的な化学農薬が減少してきており、化学農薬だけでは防除が困難になってきており、今後は天敵利用が広がると考えられている。

このことから、農業試験場環境部の井口主任研究員を講師とし、座学と農業試験場内イチゴハウスへの天敵放飼実習を行った。

座学では、那賀地域で使用されている主要5剤の化学農薬について、殺ダニ効果の検定結果について報告や、天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）の特徴、導入にあたっての注意点、導入コストなどについて学んだ。

天敵放飼実習では、天敵の入ったボトルの取扱方や放飼手順などの説明を聞いた後、実際にイチゴハウスで放飼作業を行った。

実習後は、各振興局管内の現状や天敵導入状況などの情報交換を行い、研修を終了した。

当課では、本研修をとおして普及指導員等の技術向上を図るとともに、現場での防除対策に繋がるように今後も支援していきたい。



座学での研修



試験場内ほ場での天敵放飼実習

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489